

税理士のひとりごと

税理士の佐藤です。

ある映画が公開早々「全、中高年が泣いた」と話題になっています。

タイトルは『トップガン マーヴェリック (監督：ジョセフ・コシンスキー 配給：東和ピクチャーズ)』で、36年前、バブル景気で洋画の上映数が年間 500 本を超えるなか堂々、洋画配給収入第 1 位を飾ったトム・クルーズ (以下「トム」という。) 主演作の続編です。

配給の米パラマウント・ピクチャーズによると、同作の観客で 16%が 2 回、4%



が 4 回以上観賞していると言いき、かくいう私もその 4%圏内です。

映画批評家の前田有一氏は「天才パイロットでありながら出世コースを選ばず歳を重ね、不安定な現場で働き続ける主人公が観客の共感を呼び、心に響く映画」だと評価しています。

何かといまいち元気が出ない中高年は映画館に足を運んではいかがでしょうか・・・。59 歳 (現在) のトムが演ずるマーベリックの苦悩と活躍を迫力の画面で鑑賞した後、何かしら気力とやる気が増えます (自身の感想)。

常にアップグレード

ロシアのウクライナ侵攻が引き金となり物価が高騰中です。その影響もありマイホームが夢どころか幻とを感じるぐらい手が届かない金額となりつつあります。

また、国家の根幹を揺るがす他国の侵略に備えるためヨーロッパに続き我が国でも防衛費の大幅アップが議論されています。

トップガンの前作では F14 という戦闘機が活躍しました。本作はその後継ともいえる F/A18E・F (実はこれでも古い) が使用されました。映画にとどまらず日本周辺でも仮想敵国との交戦が現実味を帯びてきました。



一方、我が国の主力戦闘機 F15 J が初飛行したのは 42 年前の昭和 55 年と人に例えると中年の部類です。ニュースで報じられる〇国や〇シアの航空機が我が国上空に接近した際には、この映画に登場するものより古い「中年機」が対応しています。

しかし、その中身は最新鋭のレーダーとミサイルに更新され外見以上にアップグレードされているので仮想敵国にとって抑止力となっています。ここで教訓を得るとすると中年であっても最新の情報への関心・知識や道具 (グッズ) への好奇心は持ちたいものです。

さて、映画では血の気が多い若者に最新の技術に頼るだけではなく、経験や仲間を思いやる気持ちを大切にしよう論

すトムが苦悩する姿がおじさんたちの琴線にふれる様です。

世代格差と人手不足

本映画は中年が活躍する物語。映画でもトムは当初、若手パイロットたちから中年のポンコツ扱いです。実際、組織（会社）の中で中年の役割の重要性が低下しているのが現実でしょう。逆説的に言うと、中年ばかりの会社は未来がない・・・！？。

当事務所のお客様でも従業員が数十人いる会社では定期的な採用で平均年齢を下げる努力をしています。しかし、10人未満の会社では求人を出しても若者どころか中年でさえ応募がない状況です。人手不足倒産が現実を帯びてきます。



勝ち組がさらなる飛躍へ

純米大吟醸「獺祭（だっさい）」で知られる旭酒造（山口県岩国市）が大胆な行動に出ました。酒造りに携わる製造部門に入った大卒の初任給を 21 万円から 30

万円に大幅アップさせたのです。その効果は絶大で例年の 2～3 倍の応募がありました。

目的は「『いいものをより安く』ではなく、飛び抜けていいお酒を造るという覚悟を持ってもらうために引き上げた」と桜井社長は語ります。もっと高みを目指すという意思表示です。



わが身を鏡で見る

人間と違って法人（会社）の姿は鏡に映りません。しかし、お客様は敏感です。会社全体は目に付きませんが社員さん一人一人の毎日の言動・行動をお客様は評価します。その積み重ねにより売上に影響が出ます。

先ほどの獺祭も若者だけで良いお酒を造る事は出来ません。中年の持つ、経験や失敗が若者と共有され、結果的に売上に結び付いているのです。

人、モノ、カネが足りない中小企業で最大限の成果を生み出す司令官が経営者です。豊富な経験を武器に元気に日々奮闘して行きましょう！

今月のことば

前作から 36 年間、どういう努力をしてきたのか、何が今につながっているのか」と質問に・・・

**「シンプルですが、とにかく努力をすること、
一生懸命仕事をするということです」**

(トム・クルーズ)

編集後記:

トップガンの前作が公開された 36 年前の自分(若者)を振り返ってみました・・・何も出来ず、何も知らなかった事が思い出され恥ずかしくなります。中(高?)年になり年月が人を成長させてくれる事をしみじみ感じます。若者たちの足りない部分(経験不足)を耐え忍び、その成長を見守るトムの苦悩にわが身を重ねます(寿)。